

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立上野高等学校全日制課程)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		日本一、生徒・先生がイキイキしている学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	<めざす生徒像> 伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける生徒 <育みたい資質・能力> ○ 課題解決力…自ら課題を発見し、その解決に向けて自分の考えを深めたり広げたりしながら、論理的に考える力 ○ 行 動 力…自分がとるべき行動を理解し、自分の考えに基づき周囲を巻き込んで行動する力 ○ 挑 戦 心…自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力
	ありたい教職員の姿	・ 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 ・ 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	○ 生徒:学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○ 保護者:国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○ 卒業生・地域住民:地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○ 大学:学力と意欲の高い生徒の育成	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	○ PTA:進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○ 地域住民:情報発信と地域貢献 ○ 小中学校:地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○ 地域の関係機関:地域人材の輩出	○ PTA:教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○ 地域住民:教育活動への理解・協力 ○ 小中学校:指導上必要な情報提供等 ○ 地域の関係機関:キャリア教育充実のための協働態勢
(3)前年度の学校関係者評価など	○多くの授業で高い満足度を得た一方で、一部に目標未達の課題が残った。生徒の主体的な学びと自己肯定感を高めるため、組織的な研修を通じて、継続的に教員の授業力向上と改善を推進してほしい。 ○本年度は新学科設立などにより、探究活動の方向性が明確になった。「信州探究ツアー」をはじめとする、探究学習の指導がより充実することを期待したい。 ○「学びのクロス」や「イキイキ塾」、「放課後カフェトーク」などの教科の枠を超えた多様な取り組みに、教員が積極的に関わっている点は高く評価できる。生徒の視野を広げる大変有意義な活動であるため、今後も継続して実践してほしい。 ○教職員の過重労働改善は容易ではないが、引き続き継続的な取り組みを期待したい。	

(4)現状と課題	教育活動	○ 授業満足度調査によると満足度が 90%以上の授業が多い。一方、満足度が90%を下回る授業もあることから継続して授業改善に取り組みたい。 ○ 授業で ICT を活用している教員の割合は100%となった。今後は非常勤講師の先生方の活用について検討していく必要がある。 ○ 探究活動について、2 年次生では探究 F・R の2つに分かれ年次団の工夫や ICT を活用した発表に向けて推進することで、よりよい学習活動が実践できた。今年度より1・2年次とも学際探究科となり、一層探究学習が重要になることから、より充実した運営体制を構築する必要がある。 ○ 共通テストへの対応が一段落し、第一志望への合格力を高める指導を一層拡充する。進学型インターンシップへの参加者が増え、生徒が様々な刺激を受ける機会が増えてきた。理数科では東京キャリアアップツアー等の取組を継続し、刺激から学問への好奇心を育む取組を増やしていきたい。
	学校運営等	○ 人権教育については、人権LHRやさまざまな機会をととして「教師がみずから語り掛ける」ことに取り組んだ結果、生徒の重要度満足度アンケートの評価は高い一方、中には困り事や悩みを学校に相談できない生徒もいる。今後も一層、生徒と教師の関係を丁寧に紡ぐ言葉かけやきめ細かな指導支援に取り組んでいきたい。 ○ 文化祭を本校保護者に加え、中学 3 年生とその保護者にも公開した。今後も保護者や中学生、地域の方の参加など、オープンな学校として中学生や地域へPRし続ける必要がある。 ○ 学校情報の発信については、本年度から公式Instagramを開設し、可能な限り最新の情報を発信するように取り組んだ。フォロワー数も増えてきたが、引き続きさまざまな機会をととして周知していきたい。 ○ 過重労働緩和・総勤務時間縮減については、定時退校日に定時で退校できた職員の数や、会議の時間減少等は改善できたが、まだまだ課題は多い。次年度に向けて、改めて管理職から周知するとともに、時間外労働者数の減少に努めていきたい。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○ 「課題解決力」や「行動力」、「挑戦心」を向上させる探究学習を推進 ○ 生徒一人ひとりが自己目標を実現できる教育活動を推進 ○ 「思考力・判断力・表現力等」を育むため、アウトプットを重視した学習活動を推進
学校運営等	○ 保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保し、本校の入学を希望する中学生・保護者が増加するよう、探究に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、いじめを許さない迅速な対応等の取組を推進 ○ 本校の教職員が生徒の成長を実感し、イキイキと勤務できるよう、活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みの構築や、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組等を推進

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 本校を志望する動機が明確で、入学後は様々な場面でリーダーとなる資質・意欲を持っている者 ○ 学習意欲が旺盛で、本校の学習内容及び教育活動への興味・関心が高く、優れた思考力・判断力・表現力を身につけ、主体的に学ぶことができる者 ○ 高い学力を有し、将来に対するビジョンを持っている者
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 生徒が学びがいを実感する学校	○全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図る。 【活動指標】 ・校内授業公開週間の設定と相互評価による実践交流を年2回以上実施 ・生成 AI や ICT の活用促進に向けた教員対象の学習会を年2回以上実施。 ・生徒による授業評価年2回実施 【成果指標】 ・生徒の授業満足度(「とても満足」と「満足」の計、以下同じ)90%以上 ・協働学習や個別学習で ICT を活用した教員割合 80%	(年度末および適宜記載)	◎
	○生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図る。 【活動指標】 ・SSH の事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、キャリアアップツアーや各種セミナーなどの「進学型キャリア教育」を系統的に実施する。 【成果指標】 ・「総合的な探究の時間」の授業満足度 80%以上 ・国公立大学合格者数、各クラス 10 人程度 ・週末の学習支援の実施。3年土曜講座7回		※
	○スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組を推進する。 【活動指標】 ・探究的な内容を含んだ授業を各科目の90%以上で実施 ・高大連携先の開拓と地元企業、卒業生、他校 SSH との協力体制の拡充 ・「みらい探究」のゼミ制導入による授業運営方法の確立と全教員での指導体制の構築 【成果指標】 ・生徒の各活動満足度各学年 90%以上		
		改善課題 (年度末に記載)	

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
2 保護者 地域が頼り がいを実感 する学校	○人権教育を積極的に推進する。 【活動指標】 ・人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ・教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ・新着任者および本校勤務2年目の教職員が年2回実施するフィールドワークに1回以上参加 ・全教職員が人権に関わる研修に積極的に取り組み、年1回以上、校外の学習会等に参加 ・生徒が主体的に取り組む小学6年生との人権交流会を実施 【成果指標】 ・人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加 ○生徒理解を深め、生徒の自己肯定感を高める指導を推進する。 【活動指標】 ・指導強化月間を年3回設け、あいさつ・身だしなみ、時間厳守、規律・安全指導を実施する。 ・保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ・支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 【成果指標】 ・問題行動による特別指導件数を一層減少 ○学校情報を積極的に提供・発信し、地域の発展に貢献する。 【活動指標】 ・ホームページ・報道機関を通じて情報発信(更新履歴件数)年100件以上 ・生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催 ・小中校との連携、地域イベントへの協力 【成果指標】 ・令和8年後期選抜学際探究科・理数科合計入学志願倍率1.1倍以上	(年度末および適宜記載)	◎ ※

3 教職員が働き甲斐を実感する学校	○過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進める。 【活動指標】 ・定時退校日を月1日設定し、定時退校できた職員の割合100% ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 90%以上 ・部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合 100% 【成果指標】 ・月 45 時間を超える時間外労働の延べ人数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働の人数 0 人 ・1人当たりの月平均時間外労働 25 時間以下 ・1人当たりの年休取得日数を昨年比 1.1 日増加(目標値11 日)	(年度末および適宜記載)	◎ ※
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)